

弘大『キャリア@通信』 vol.001

弘前大学学生就職支援センター

<Voice①> 『明るく・元気で・誠実なこと』

東北電力株式会社

大西 健さん (H16年 人文学部卒)

<Voice②> 『“大きい物”をつくりたい!』

株式会社 IHI

横浜 真誠さん (H17年 理工学研究科修了)

<Voice③> 『“見に見えない財産”ができること』

八戸市立根城中学校

小野寺 良治さん (H8年 教育学部卒)

●OBが弘前大学に来てくださいました

～ようこそ! 元気な先輩～

人文学部OB 鈴木裕一さん

医学部OB 大本靖花さん

教育学部OB 白戸修一さん

理工学部OB 古桑里香さん

●コラム“仕事が楽しくなる能力”とは

●東京企業見学会及び弘前大学OBとの懇談会

●information

弘前大学主催 合同企業説明会

企業204社が集まり弘前で開催されました





キャリア@通信 Voice①

一番大切なことは、
「明るく・元気で・誠実なこと」

東北電力株式会社

本店
経理部 財務グループ

おおにし たけし
大西 健さん
(平成 16 年人文学部卒 28 歳)

高温になった冷蔵庫の熱を水に伝え水を冷やします。

『青森の力になりたい!』
東北の中で活躍できる仕事

●現在どのようなお仕事をされていますか。

経理部の中で出納の仕事をしています。簡単にご説明すると、お金の出し入れに関わる業務です。経理部全体では社債の発行や決算報告など色々な仕事があります。部全体では70～80人いて、社内でも規模の大きい部門です。

新入社員の時は経理ではなく、入社して2年半程、秋田県横手市の営業所に勤務しました。営業職としてお客様の引越契約や料金など様々な仕事に携わりました。その後、秋田支店に異動して初めて経理の仕事を担当しました。学生時代は人間文化課程で社会言語学や方言、コミュニケーションを研究していたので「経理」への配属は意外でした(外見も経理らしくないと言われますし...)。新たなチャレンジだと思って一生懸命勉強しました。

ここで2年間、経理の基礎、経理の実務を経験して平成20年7月から仙台にある本店で現在の仕事に就いています。
●学生するとき、なぜ東北電力で働きたいと思われたのですか。

私が就職した2004年は就職氷河期なんて言われて大変な時だったかもしれません。何でもやろうと思っていました。私の出身は青森県外ヶ浜町の平舘です。青森で生まれ育っているので「青森の力になりたい!」東北の中で活躍できる仕事に就きたいと考えていました。

ゼミの先輩達が活き活きして
いて...いいなと感じました

●大西さんは、どんな学生だったんですか。

実は1年生の時はあまり「まじめ」ではなかったんです。授業も欠席したり...。2年生になり研究室の実習で、ゼミの先輩達がとても熱心でした。活き活きしていいなと感じました。ゼミ室で研究のために長い時間そこにいるんですね。寝袋があったり、鍋をしたり(笑)。そういう先輩を見て「ひとつのことに打ち込むのって楽しそうだし」と感じました。それからは1年生の時の遅れも取り戻して、本も読んで、アルバイトもして、家にも帰らず研究室に行って...。ゼミの研

究成果を横浜市が採用してくれたり、NHKさんや国立国語研究所さんにも助けてもらったり、ラジオのアップルウェーブに出演させてもらったりもしました。講義を聞く勉強以外に、自分たちで、ああしてみよう、こうしてみよう、じゃあやってみよう!という勉強をさせていただきました。楽しかったですね。

小学校から野球をやっていたので、野球サークルにも所属していました。先輩達が立ち上げたばかりのサークルで、まだ4年生はいませんでした。その後メンバーは増えて卒業する時には30名ぐらいになっていました。私は宴会部長です。



東北電力株本店ビル。仙台駅から徒歩10分の場所にあります。

仕事のつながり。仕事を通じて色々な人と出会います。

●学生の頃と社会人では何が異なるとお感じですか。

学生の時は自由に自分の思ったことをやらせてもらえました。時間もありませんでした。社会に出た後で違うのは「スピード」を求められることです。1日悩んで考えるのではなく、その場でお客様に回答しなければなりません。「これは自分の手に負えるものなのか、負えないのか」の判断さえも時間をかける訳にはいきません。

社会に出ると学生の時のような人との付き合いばかりではありません。会社って色々な人がいます。先輩や後輩、上司やお客様もいます。いろいろな人がいて「仕事のつながり」があります。自分が雑な仕事をしてしまえば、周りの人、次の人が困ってしまいます。次の人のことを考えて仕事をする。これを上司や先輩からご指導いただきました。すごく勉強になり、実はちょっとしたショックでした。このことが社会人になってから強く感じ

たことです。

経理はお客様と接することが少ないかというところ、そうではなく、金融関係、お取引先の方々とお会いすることが結構多く、よい刺激になります。また社内のいろいろな人と接する機会も多いんです。仕事を進めていくために他部署の勉強もします。例えば、鉄塔を建てる仕事に関われば、工事をする上で予算を組んだり、お金の支払い、固定資産の手続きもあります。他部署の人と仕事をして自分の知識も蓄えられます。人と接することが大切。仕事を通じて色々な人と出会うことができます。これは総務や人事など会社の間接部門全体に言えることだと思います。



オフィスはお互いの顔が見える開放的な雰囲気です。仕事をする大西さん。

一番大切なことは、
明るく・元気に・誠実なこと

●弘大生の後輩に何かメッセージをお願いします。

自分が何で弘前大学に入ったのか、自分はこういう理由でここにいる、自分は何をしたいから今度どうする、というような事をきちんと考えて、目標をしっかりと持って学生生活を過ごしてください。

そして一番大切なことは『明るく・元気に・誠実なこと』だと思います。社会に出てから、やっぱり、これが本当に大切なんじゃないかと感じました。小学校や中学校の時は、みんな明るく元気だったのに、大学生や社会人になるとだんだん忘れちゃう。もったいないです。学生時代しかチャレンジできないこと、学生だからできることも、いろいろやってみるとよいと思います。

●本日は有り難うございました。

取材・インタビュー
田中和(人文学部3年)

コラム 『仕事楽しくなる能力』とは..

このコラムではキャリア論のご紹介をしていきます。今回は『仕事楽しくなる能力』。誰も「自分のやりたい仕事」に就きたいものです。でもこの「やりたい」が「世の中には「今は知らない仕事」がたくさんあります。知らない仕事を「やりたい」とは思えませんか。何かのキッカケで働くことになった仕事、実はあまり好きだとは思っていなかった仕事、せっかくだから楽しく働いてみませんか。そんな「仕事楽しくなる能力」を学生のうちに身に付けておきましょう。



学生就職支援センター副センター長 小磯重隆

たまたま偶然に与えられた仕事環境の中で、その仕事の8割が楽しくなくても、残り2割の少しだけ興味を持てる何かの中で「楽しい」を膨らませ、仕事を工夫し、ちょっと成功し、ほめられ、何かがわかり、2割が広がる...。本人も気づかぬうちに、仕事ができるようになり、後輩に教えてもいる。そんな「力」、たくましい「能力」とは何でしょうか。

労働局調査によると入社3年以内の離職率が全国平均(大学卒)で36%にも及びます。「自分のやりたい仕事じゃなかった...」という離職理由も多いようです。短期の離職は職業能力も身に付かないし、きっと仕事の楽しさも感じる事ができない人になってしまいます。

2つの能力と4つの課題をご紹介します。

第一に「人の真似をして、できると思える能力」です。①その一部分の分量を自分で決める、②人に聞く、が重要です。

第二に「自分の工夫を実現する能力」です。

③興味を持って考える、ことや、④人を巻き込む、が重要です。



人の真似といっても仕事全部を真似ることは新人には難しいでしょう。一部分を自分で決めることが大切です。人の真似をするのですから、見てわかる部分と聞かなければならない部分があります。思い切って先輩に「声をかけて」みましょう。普段から「あいさつ」をしていると簡単かもしれません。

自分の工夫は何から生まれるのでしょうか。興味を持つことです。興味は好きであることを要しません。嫌いな仕事を何とかしたい、さっさと終えて早く帰りたい気持ちなどは逆に最高の動機づけです。そして、考えているだけでは不十分です。最後に実現を経験します。しかし勝手に仕事内容を変更することは許されません。実現するため人を巻き込みます。仕事を変更・改善するため「承認」されることも大切です。「そんなのダメだよ」「勝手にやり方を変えるな」と怒られるかもしれませんが、自分以外の人に「いいね」と思ってもらうため、「まだ私の情熱が伝わらないな〜」「もう一回工夫して話してみよう!」と考えてください。もうこの時、仕事楽しくなっているに違いありません。

キャリア@通信 Voice②

物づくりを支える仕事、
“大きい物”をつくりたい!

株式会社 IHI
技術開発本部 総合開発センター
機械技術開発部精密システムグループ
よこはま まみ
横浜 真誠さん
(平成17年理工学研究科修了 28歳)



“やっと一人前!”の4年目 さらに技術を磨きます

●現在どのようなお仕事をされていますか。

機械の設計開発の仕事をしています。お客様に納める設備もありますが、今年は社内の設備の開発を主に担当しています。造船に関係するマテリアル搬送の開発が私の仕事です。

新入社員の頃は、技術開発本部で社内に蓄積するための研究を担当しました。指導していただく先輩と一っしょに仕事をする形です。弊社には「指導員制度」があって、入社から3年間、指導員が付いて仕事を教わります。教育期間ですね。私には機械設計開発の30歳代の先輩が付いてくれました。

今年で4年目。やっと中堅になって一人前になりはじめたかな?というところです。中堅になると“一人ひと装置”を担当します。さらに技術を磨いていきます。

装置をつくって物が出来上がっていくところが楽しいですね。図面を書いて、製品が加工

され、実際に試運転をして、確認して…。加工や組み立ては発注する形で他の方に頼みますが、装置を納めるまで全てに携わります。お客様に納める仕事では「お金」もいただきますし、「仕事をしている!」という気持ちになります。

●学生のときはどんな研究をしていましたか。

ロボット工学や制御を研究していました。学部の研究は3年生の後半から始まりますが、実際は4年生からが本番。ロボットの研究室に入りましたが、1年では短いなと思い、大学院の知能機械システム工学専攻に進学しました。研究と学会で忙しかったです。



横浜事業所内の展示室。色々な技術が世界の幅広い分野で活かされています。

学部の時に、実は器械体操部にも入っていました。友人に誘われて見学をしたのがきっかけです。友人はバレー部に入学してしまいましたけどね。よく短期のアルバイトもやりました。りんご収穫のアルバイトでは、上の方の実を取るのが大変だった思い出があります。

物づくりを支える仕事、 “大きい物”をつくりたい!

●就職する時に不安はありませんでしたか。

入社当時の社名は「石川島播磨重工業株式会社」でした。2007年に社名が変わり2年程経ちます。はじめから物づくりに進みたいと思っていました。不安はなかったですね。できれば“大きい物”をつくりたい!と考えていました。

配属は横浜事業所。私の名前と同じです。下北半島の風間浦が故郷で、高校生の時から下宿をしていました。今は会社の寮に住んでいます。自転車です。大学の同期生が神奈川県や埼玉県に結構いますよ。偶然ですが、隣の敷地に東芝さんがあって、学部・大学院と一っしょだった同期の

女性があります。勤務地がどこになるか就職前はわかりませんでしたが、今は知り合いも多く、不安はありません。

フレックスタイム制 女性が働きやすい職場です。

●仕事で“楽しいこと・辛いこと”を教えてください。

色々な方々とお付き合いするので成長できます。ひとつの物をつくるのに、たくさんの人が関わっています。弊社は1号機をつくることが多いので、わからない事にチャレンジしながら物が出来上がっていくことが楽しいですね。

辛いことと言えば、「期間(納期)が決まっている」ことです。どんなことをしても間に合わせますね。徹夜もします。社内の方や、遠くの工場の方をお願いしていることもあり迷惑をかけられません。

昔ながらの重工の会社で、女性は少ないのですが、周りの人がいろいろ配慮してくれます。女性が働きやすい職場だと思います。出産後に復帰される女性の方も多いですよ。研究職は若い人が多く、早い人は2年目で指導員になる人もいます。

勤務はフレックスタイム制です。必ず出勤する時間帯のコアタイムは10～3時です。基本は8時半から5時半ですが、自分の仕事に合わせて時間帯を変えて勤務することができます。会社では作業服で、毎日この格好です。私は作業服が好きですよ。



仕事で求められる「ニーズ」に自分を合わせる事が大切と語る横浜さん。

●どんな社会人生活ですか。お給料は何に使いますか。

そうですね、お給料は旅行に使います。趣味が国内や海外への旅行なんです。2回ある夏休みを使って旅行します。最近ではオーストラリアに行きました。

青森県と神奈川県、どちらも良い所があると思います。交通機関はこちら

の方が便利です。忘年会などでは中華街に行くこともあります。同期入社の人とも仲がよくて、社内のテニスコートで運動したりします。会社の敷地には、グラウンドや体育館もあるんですよ。

山下公園や元町商店街やレストランなど近所に良い所は多いのですが、実はあまり行ってないですね。

臆することなく、前に出て みていいと思います

●弘前大の後輩に何かメッセージをお願いします。

社会人になってからでも勉強はできますが、やはり「語学」ができるといいですね。私も外資系のお客様にお会いする時があります。装置の据え付けに何う時など、もっと語学ができたらと感じます。新しい環境に入る時は不安もあるでしょうが、臆することなく、どんどん前に出てみていいと思います。

●本日は有り難うございました。

取材・インタビュー
田中涼(理工学部2年)

☆ようこそ! 元気な先輩☆

社会に出て活躍している卒業生の先輩が弘前大学に来てくれました。『ようこそ! 元気な先輩』として学部主催のガイダンスやゼミ単位で“就職講話”をしていただきました。皆さんの先輩ですので、仕事の話も、学生時代の勉強の話も、恋愛や結婚や今の生活の話も、何となく自分と重ねてキャリア・ビジョンを描きやすいようですね。先輩も弘大生の考えていることはお見通し。本音のお話を伺うことができました。ここでは来学いただいた先輩方をご紹介します。

またその他、企業説明会やガイダンスでも卒業生の方々に来学いただきました。ありがとうございました。



大本 靖花 さん
平成19年 医学部卒業
大阪回生病院
リハビリテーションセンター
勤務(理学療法士)
☆職場を写真でご紹介いただき専門職としての体験談をお話いただきました。



鈴木 裕一 さん
平成5年 人文学部卒業
東北ユーザック(株)
総務部 勤務
☆学生時代のお話から新入社員の頃の体験談を伺いました。人事ご担当なので就職活動の参考になりました。



白戸 修一 さん
平成16年 教育学部卒業
平成18年教育学研究科修了
青森少年院
法務教官・庶務課 勤務
☆法務教官という仕事のやりがいについてお話いただきました。



古桑 里香 さん
平成17年 理工学部卒業
平成19年理工学研究科修了
藤倉ゴム工業(株)
技術開発本部材料開発グループ勤務
☆技術職として就職と進学、現在の仕事についてお話いただきました。



キャリア@通信 Voice③
**教師になってよかったことは、
 “目に見えない財産”ができること**

八戸市立 根城中学校
 教諭
 おのでら りょうじ
小野寺 良治 さん
 (平成8年教育学部卒 35歳)

『すべてが積み重ね』
 生徒との信頼関係が大切

●これまでのお仕事について教えてください。
 大学を卒業して13年経ちます。1年目は八戸市内の中学校で講師をしました。その年の採用試験に合格して、階上町立道仏中学校で3年勤務した後、この根城中学校に来ました。理科を教えています。この中学校で6年勤務し、昨年と一昨年は、青森市にある「青森県総合学校教育センター」で務め、戻ってきて1年です。
 社会人1年目の講師は辛かったです



根城中学校。グラウンドでは野球部の生徒たちが練習をしていました。

ね。たぶん一般企業とは異なるんでしょうが、教壇に立ったら、もう一人前として見られます。新人ではなく、生徒は先生として見てくれます。そのプレッシャーが大きかったですね。自分で「失敗したな」と感じる事が多かった事を思い出します。でも全てが積み重ねになっていくので、私としては、この1年間の経験が貴重でした。
 ●部活指導もされているのですか。
 根城中に来て、青森のセンターに行くまでの6年間はバレーボール部の顧問でした。私自身バレーボールを中高・大とやっていました。昨年、戻ってから、野球部の顧問をしています。いやー、野球を勉強しましたよ。好きな部活を受け持てるわけではないので、受け持ったからには勉強をしなければなりません。授業も部活も、基本的には同じ。ただ「教えて、覚えてくれる」だけではなくて、人としての「人間関係」がないと成立しないんです。理科を好きになってもらうために、人間としての先生を好きになってもらう。自分の口から言うのは恥ずかしいですが、それぐらいの気持ちでやっています。野球も、一緒にやっ

ていて“楽しい”と思ってくれば、試合に勝っても負けても、すごく良い関係になれる。どの程度できているかわかりませんが、それを目指してやっています。
 生徒と関わっていると、8時に来て5時に終わるという関係ではないので、時間外で面倒をみることもあります。生徒やその親との信頼関係が大切です。授業でも部活でも共通していると思います。
 教師をやった良かったことは「目に見えない財産がたくさんできる」ことです。言葉で表現できない財産がいっぱいあるので、大変だけれど、すごく面白い職業です。毎日変化のある生徒たちと接していると面白いです。
 ●小野寺さんが、教員をめざした理由は何ですか。
 教員の道に進みたいと思ったのは、高校2年の時でした。バレーボールをやっていた先輩が、先生になって戻ってきたんです。先輩が教えるチームと練習したりして、「僕もバレーを教えたいな」と思ったのが、教員を考えた

スタートです。高校2年の私は、理科の前に、バレーだったんです。
 大学では、あまりマジメじゃないけど、しっかり勉強していました。学部の中でも有機化学をやっていたので、薬品の臭いのする教室のあたりにいました。3年生になって専門科目も増え、教員をめざして、自分としては意識的に勉強しました。

学生時代からの友人と、付き合いが続いています

●弘前大学では、どのような学生生活でしたか。
 私は八戸市出身なので、1年生の時は下宿です。部活で帰宅が遅くなると下宿の夕食が食べられずもったいないので、2年からアパートに移りました。あの頃は西弘で飲んでいましたね。それがコミュニケーションでした。お金も無くてね。実は自分の趣味もあって弘大を選びました。釣りやスキーが趣味なんです。勉強にバレーボールに、釣りにスキーに、西弘で飲んで語って…、忙しい学生生活です。楽しかったですね。バレーボール部エースの友人宅に1ヶ月ぐらい、居候した事があります。料理が上手で…(男ですよ)。

十和田出身の友人ですが、今でも2~3週間に一回会ったり、泊めてもらったりしています。大親友です。家族みたいです(笑)。学生時代からの付き合いが今でも続いています。

“失敗はしたけど、へこたれてはいない。やろう!”と

●弘大生の後輩に何かメッセージをお願いします。
 自分が“好きだな”と思ったものや、色々なことに、視野を広くもって挑戦してもらいたいと思います。教員をめざす人は、もちろん勉強もありますが、色々な経験を積むことが、後で活きてきます。“時間無いな…、面倒くさいな…”、“どうしようかな…”と思ったら“行動”してみる。その行動力と視野の広さが大切だと思います。
 私は、最初の1年間がなければ、今の自分はなかったと思っています。すごい失敗の1年でした。それがあったので良かったと思っています。“失敗はしたけど、へこたれてはいない!”辛いけど、逆に“やろう!”と、それが、今までずっと繋がっています。



日本人が行ったことのない川をめざしてロシアにも釣りに行った小野寺先生。

生徒が40人いると色々です。私も幅広い視野を持って、柔軟に楽しいことをやろうと思って頑張っています。
 学生の頃、将来どうしようか、自分の中でビジョンがありました。今でもあります。ただ何となくこうなった…ではなく、一生懸命いろいろなことをやってみる。自分の中で大変なんです。それができればすごいですよね。
 ●本日は有り難うございました。

取材・インタビュー
 秋元沙織 (教育学部1年)

東京都内企業見学会
 及び弘前大学OBとの懇談会

21世紀教育「社会と私-仕事を通して考える」
 「社会と私-キャリア・デザイン論」を受講した学生15名が参加しました。授業で感じたこと、得たことを、今度は自ら社会見学や諸先輩と話をすることで、更に深めるためのものです。企業2社の見学と弘大OBとの懇談会を実施しました。

3月6日(金)東京駅八重洲口に近い「弘前大学東京事務所」前に朝8時半に集合しました。学生15名、教職員4名。今回は全員2年生です。弘前から現地まで、各自旅行プランを考え集合することも課題のひとつです。
 午前は日本通運(株)本社ビルを訪問。オフィスや食堂、資料室を見学させていただきました。午後はアサヒビール(株)茨城工場を訪問。生産の流れを見学し、試飲もさせていただきました。
 午後7時、市ヶ谷に移動。東京近郊で働く弘前大学OBの方々10名が集まってくださいました。弘前大学東京同窓会の会長さんでも参加いただきました。皆さん東京で活躍されているOBの方々です。優しく、厳しくOBならではの話を聞くことができました。



↑弘前大学東京事務所前で集合。事務所の窓から東京駅が見下ろせます。



東京近郊で活躍されている弘大OBの方々10人からお話を聞きました。↓



大学主催『合同企業説明会』

2月12・13日ベストウェスタンホテルニューシティ弘前を会場に、弘前大学主催「合同企業説明会」が開催されました。県内外204社の企業採用で担当者の方々にお集まりいただきました。学生も2日間でのべ950名が参加しました。2月11日には医学部保健学科主催で医療関係のみの説明会が本町校舎で開催されました。



↑「合同企業説明会」の風景
(会場：ニューシティ弘前)
204社の企業にお集まりいただきました。

医学部保健学科主催
『合同企業説明会』の風景 →
医療関係66施設にお集まり
いただきました。



学生就職支援センターのご案内

総合教育棟1階にある学生就職支援センターに立ち寄ってみてください。センターには企業から頂いた求人票や会社資料の他、教員・公務員採用試験、先輩の就職活動報告書などの資料もあります。



↑学生就職支援センター
のようす



個別企業セミナーを→
開催するセミナー室



編集後記



弘大『キャリア@通信』の読者は学生です。社会で活躍している弘大卒業生のお話を聞くことで職業観やキャリア意識を培ってください。大学教職員のほか、皆さんを多くの先輩達がサポートしてくれます。

左側に描かれている赤いりんごとハートはセンターのマークです。りんごは青森県を、赤いハートは学生の皆さんや企業の方々に対応する教職員の精神を象徴しています。我々も皆さんと同じ思いを持って就職活動を支援し、皆さんひとり一人、りんごのように大きく実ってほしいとの願いも込められています。



田中 和 (人文学部3年)

仙台での取材楽しかったです！人文学部の先輩からのお話は就職活動中の身には良い刺激でした。



大城 花子 (教育学部2年)

カメラを通して先輩方の仕事に対する思いや、大学生時代の思い出を見られたような気がします。



田中 涼 (理工学部2年)

横浜は物もそろっていて、中華料理もおいしかったです。都会への期待が高まる取材でした。



秋元 沙織 (教育学部1年)

取材した先輩は、人と人とのつながりを大切にする方でした。今後の大学生生活の参考にしたいです。

表紙の写真

神奈川県横浜市「山下公園」から眺める横浜の港の風景。(株)Hさん取材の前日に撮影しました。近くには元町商店街、港の見える丘公園があります。中華街、赤い靴をはいた女の子の像も撮影しました。



弘大「キャリア@通信」vol.001 平成21年3月24日

編集・発行//弘前大学学生就職支援センター

取材学生スタッフ//田中和、田中涼、秋元沙織

撮影//弘前大学写真部 大城花子 編集協力//篠崎有香

